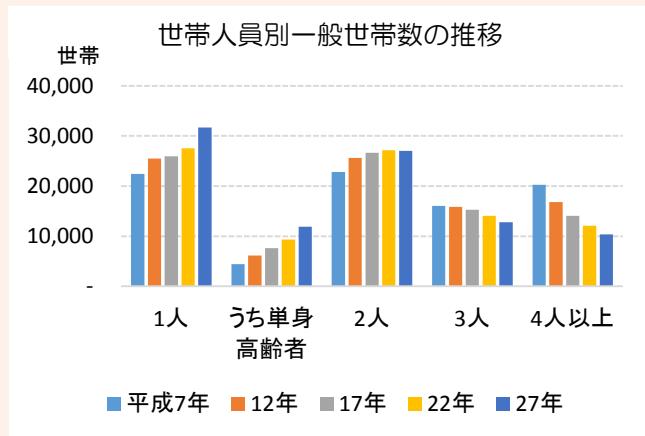
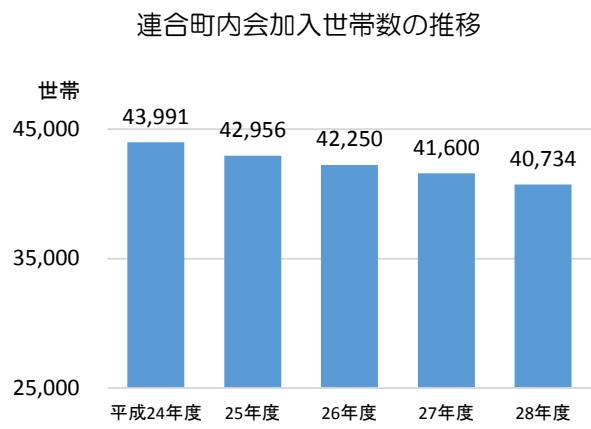
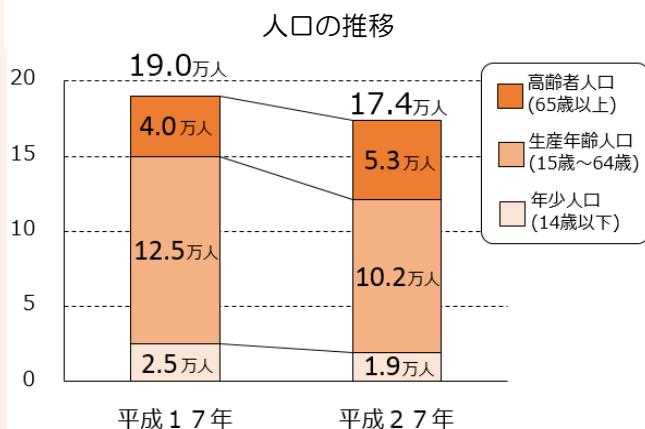


まちづくり基本構想シンポジウム資料

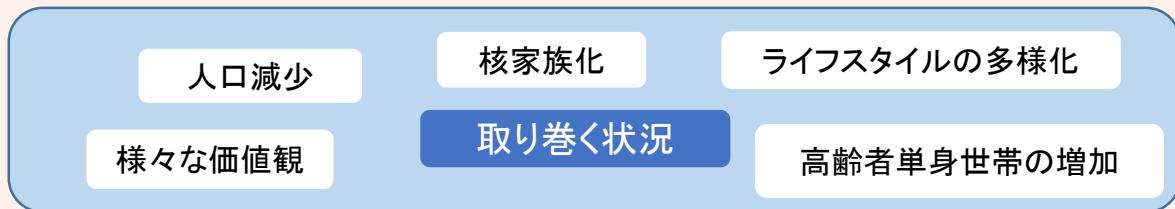
1 本市を取り巻く状況



人口減少や世帯構成の変化、ライフスタイルの多様化などによって、地域内のつながりの希薄化が懸念されています。

一方で、防災や地域福祉、教育など、多くの分野で、支え合いなど地域のつながりが果たす役割がますます重要になっています。

まとめると・・・



人と人のつながりは希薄になりがち・・・

でも・・・

例えば、災害時には、住民同士や企業と連携するなど地域内で助け合うことが重要

今こそ

地域内のつながりや信頼関係を再認識し、構築すべき時



しかし・・・

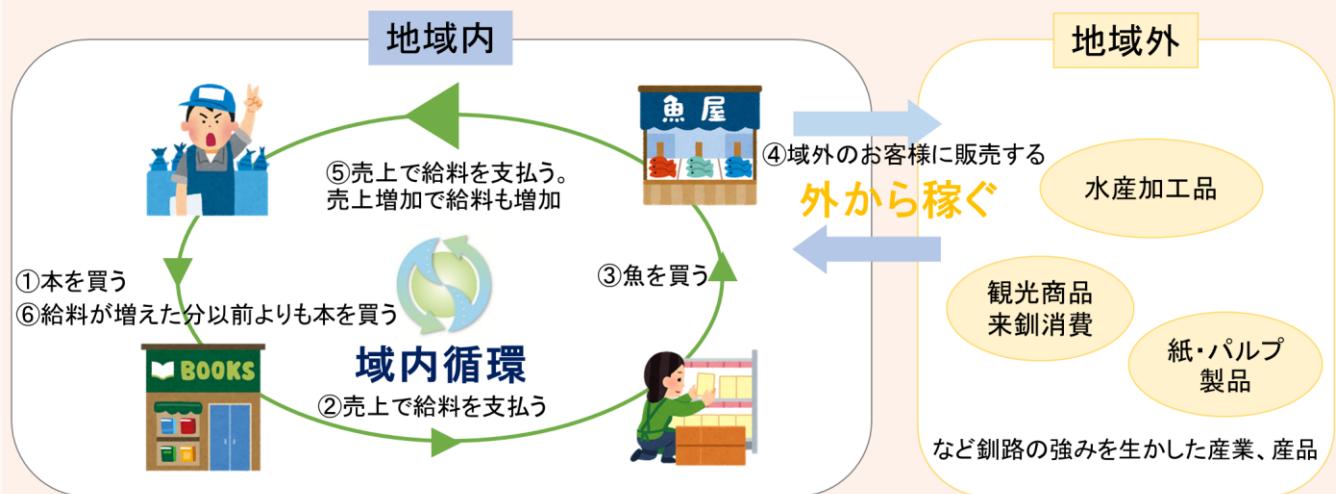
人と人のつながりは、何も無いところに突然築かれるものではありません。

2 釧路市の経験（域内循環）

釧路市では、市が自らの力で経済の活性化を図ることが大切だと考え、釧路が持つ優れた地域資源を強みとして生かし、産業間の連携を深めるなど、地域の資源、技術、雇用、消費をしっかりと結びつけ、地域内でお互いに買い支える「域内循環」に取り組んでいます。

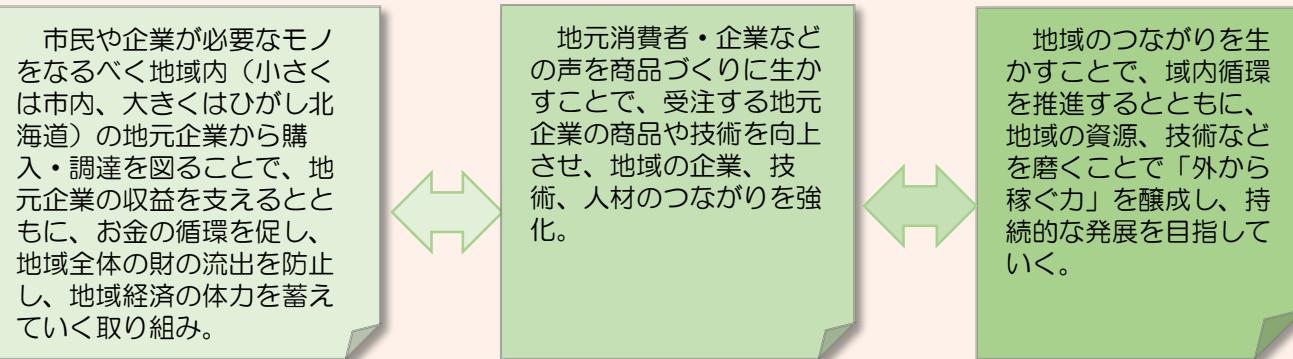
また、域内循環は釧路市域だけの閉ざされた経済活性化策ではありません。「市域で賄えないものは管内との連携で、管内で賄えないものは釧路根室圏との連帯、さらには東北海道との連帯」を視野に入れ、ヒト、カネ、モノが交流する生産や消費活動を高める取り組みを進めています。

域内循環と外から稼ぐ力



※ イメージ図内の業種や取り組みは一例であり、様々な可能性があることに留意が必要です。

外から稼いだ財を域内循環で逃さない！



域内循環の経験を生かし、同じ課題や目的に取り組むなど、日常的な活動の中からつながりや信頼関係を築くことを目指し、市のまちづくりの最上位の指針に位置付けます。

3 域内連関への挑戦

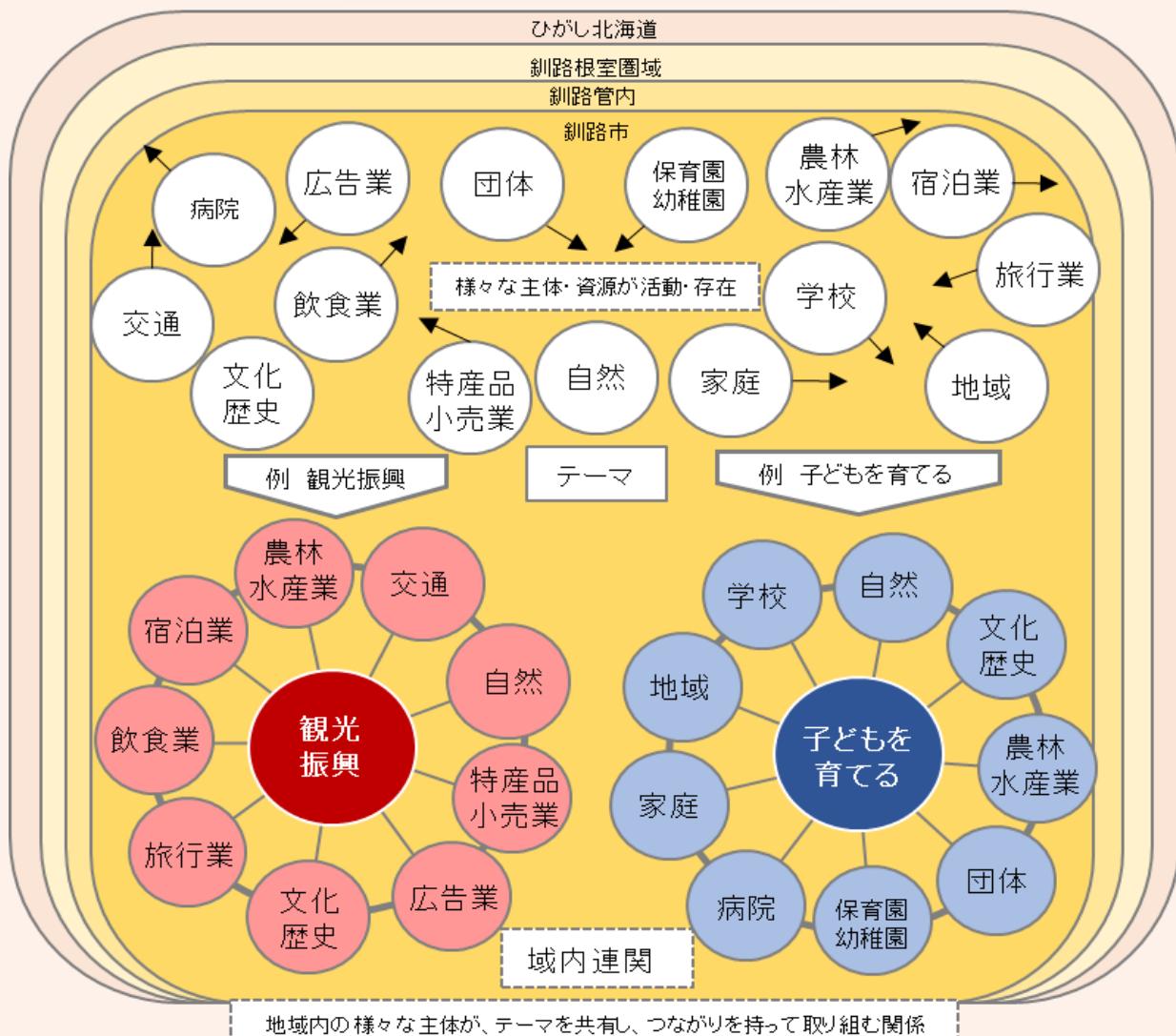
域内連関は、持続可能な「みらい」にむけて、「まち」「ひと」のつながりを強め、地域の力を結集するための理念です。

いきないれんかん

「域内連関」とは、地域内の様々な主体がテーマを共有し、それぞれの強みや地域資源を生かしながら、付加価値の創造や地域課題の解決に向けて行動する考え方です。

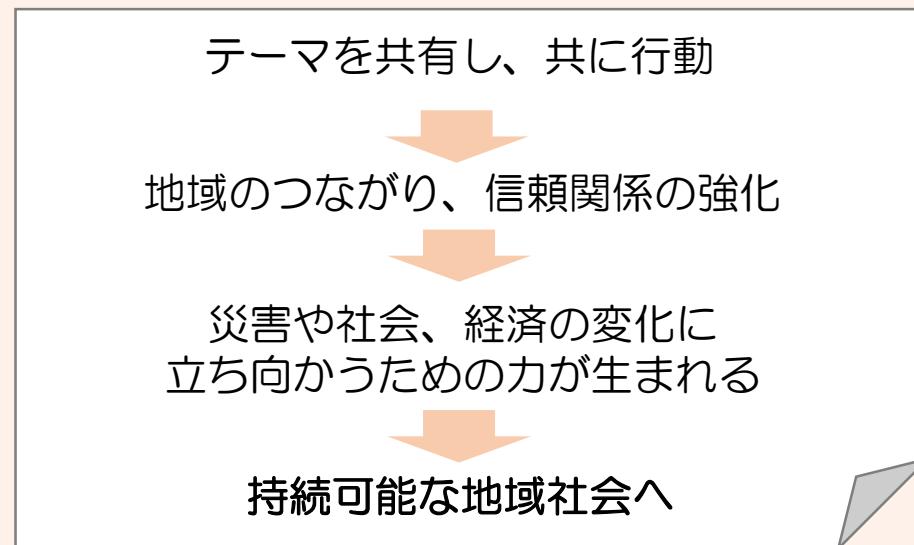
域内連関に取り組むことで、地域のつながりや信頼関係は一層強まり、観光産業や地域のコミュニティ、防災、福祉など様々な分野に大きな力を発揮します。

【域内連関のイメージ】

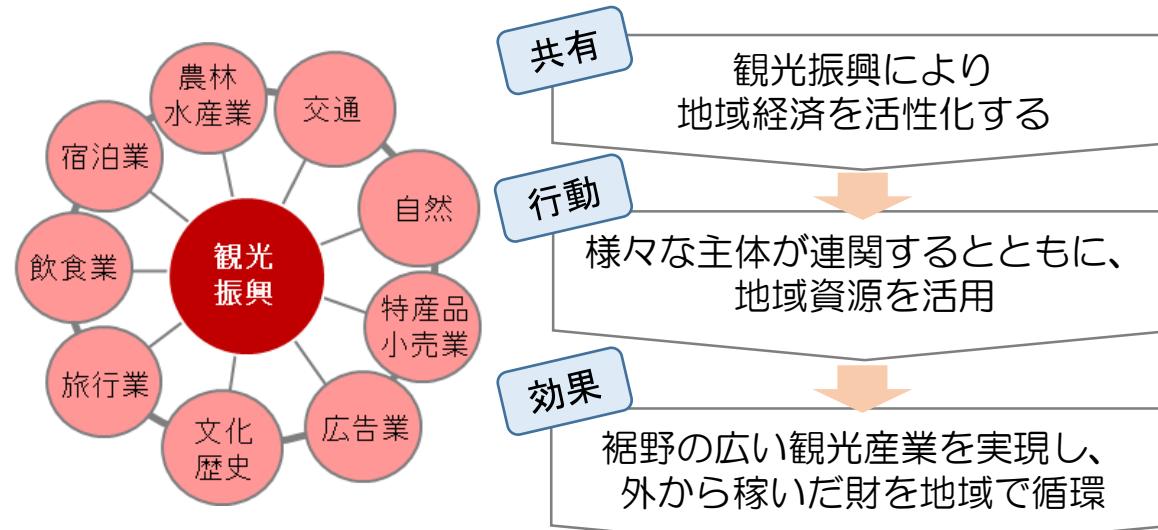


- ・ 釧路市が考える「地域内」は、釧路市内を基本とし、広域的視点からはひがし北海道を想定しています。
- ・ 共有するテーマによって、連関する対象は様々な可能性があります。
- ・ 域内連関は、無理をして行うのではなく、それぞれができることを考えることが重要です。

【域内連関の仕組み】



観光振興に取り組むテーマにおいては・・・



子どもを育てるテーマにおいては・・・

